

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

小山町長

市町村名 (市町村コード)	小山町 (22344)
地域名 (地域内農業集落名)	上野・中日向・大御神 (上野・中日向・大御神)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年8月30日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地区は、基盤整備が進んでおり1筆あたりの農地が比較的大きいため、大型の農機具が比較的耕作しやすくなっている。

しかし、当地区の農業経営に関する後継者がいない、または不明と答えた農家は30%以上あり、今後農地の遊休農地化が進むおそれがある。

さらに、農業用機械や農業用資材が高騰する一方で米価が思うように上がらないため、個人では農業経営を継続していくことが困難である。

上野地区は、多面的機能交付金をを活用し、地域住民が一体となり農地を管理している。さらに、大規模園芸施設が3件(株サンファーム富士小山・(株)サンファーム令和・(株)富士のふもと農園)進出しており、これらの栽培面積は24.7haである。

【地域の基礎的データ】

主な作物: 水稻・施設園芸作物(トマト・レタス等)・山葵

【多面的機能交付金活用地区】

- ・上野美農里会
- ・上野南部みのり会

(2) 地域における農業の将来の在り方

地域農業を継続していくためには、コストや担い手不足により個人の農家では経営を続けていくことが困難である。そこで、集落営農組織や法人化をすることで、機械の共同利用や資材の一括購入等、1農家では大きな負担となっていた経費を削減し地域農業の持続化を図る。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	103 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	103 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とし、その区域と住宅地又は林地との間にある農地は保全・管理を行う区域とする。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地中間管理機構を活用して、認定農業者や担い手、農業法人を中心に団地面積の拡大を進めるとともに、農地集積・集約を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
地域全体の農地を農地中間管理機構に貸し付け、担い手の経営意向を考慮し、段階的に集約化を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
本地区は基盤整備がほとんど終了しているため、今後は多面的機能交付金を活用しながら、整備後の農地の維持管理や継続的な利用を図る。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
町やJA、JA協同サービスと連携し、地域内外から多様な経営体を募集し、栽培技術や農業用機械のレンタルなどの支援や生産する農地をあっせんし、相談から定着まで切れ目のない取り組みを展開する。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
耕作者がいない農地が発生した場合、JA共同サービス等への農作業の委託の検討や調整を行い、遊休農地の発生防止を図る。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①有害鳥獣の農地への侵入が増加しているため、猟友会員の後継者の育成や狩猟免許の取得、電気柵の改善等地域での対策を検討する必要がある。
- ⑩今後の農業者を育成していくため、水稻の栽培技術講習会や農業用機械の操作研修会を開催し生産性技術の向上を図る。